



シャングリラ

愛媛県立図書館長
松岡 徹

それは十数年前、東京の友人からのLINEだった。「チャットモンチーのドラムやってた高橋久美子って知ってる?」

この春、彼女の新刊『いい音がする文章』(ダイヤモンド社)を読んだ。(以下、太字は本文の引用)

これまで私は国語教師として「その一冊があなたの人生を変えるかもしれない」と教えてきたが、まさか「この一冊が自分の半生を振り返ることになる」とは思わなかった。

「いい音がする文章」こそが時代を越える

たしかに高校で教える古文や漢文は「いい音がする文章」である。特に漢詩や和歌は音読すると心地よい。ちなみに、生徒が古典を理解しているかどうかは音読させるとすぐわかる。

米津玄師の曲が「懐かしい」のはどうしてか

昨年、藤井風と米津玄師のライブに行った。それでも、出身が岡山県と徳島県のアーティストが多いのはどうしてか。音楽に限らず授業もスポーツ観戦もライブに限る。双方向の迫力が違う。

先日、当館で行われた読書ボランティアビギナーズ講座に参加した。

「読み聞かせとは、目の前にいるだれかのために、生の声で心をこめておはなしを伝えることです。読み手と聞き手が、一つのおはなしを介して心を通い合わせることができます。」(松山おはなしの会副会長波頭直子氏)

私は『羅生門』や『山月記』が好きで、朗読して生徒に聞かせていたが、自己満足だった。

私は、五七調や七五調のリズムは漢詩からきていると思う。漢字は表意文字だというが、私は表音文字と考えている。旁(つくり)と同じであれば、中国音は同じであり、意味も同じだ。例えば『論語』学而篇「学而時習之 不亦説乎」の「説」を「よろこぶ」と読むのは、「悦」と同じ、と解釈しているからである。

紫におう 法皇の

嶺にあふるる 曙(あけ)の霧
ある学校の校歌である。校歌を思い出し唱ってみてほしい。七五調である。

日本人の名前も、五音か七音が多い。「ま・つ・お・か・と・お・る」「ふ・じ・い・か・ぜ」たしかに、平成生まれの名前には「よ・ね・づ・け・ん・し」のように、6音が多い。これは五音や七音の破調であろう。

なぜ「自分のリズム」を見失ってしまうのか?

「夏休みの宿題をお返ししたい」久万小6年松組担任の先生の声を40年ぶりに聞いた。宿題とは『三角形のなぞ』、原稿用紙40枚のナスカの地上絵をモチーフにした冒険小説である。プロットを考えたと記憶しているが、矛盾するところもあり、所詮、小学生の妄想である。

「ほんとは小説家になりたかったんじゃろ?」恩師はそういった。そうかもしれない。しかし、その夢ははかなく散っている。

大学院生のころ、密かに青春小説を書いていた。それと同タイトルの小説が、第4回坊っちゃん文学賞を取った。ストーリーは違うが、青春小説であることは同じ。ショックだった。それ以来、断筆している。

昭和の国語の授業は「自分のリズム」を見失う。高校生のころ、入試小論文を書くことはあっても、俳句や小説を創作することはなかった。それを打破したくて、私は高校の国語教師になった。

「今からでも遅くない。小説を書いたら私に送りなさい。楽しみにしているから」と御年90歳の恩師が言う。ちなみに、先生は退職後、俳句を始めたらしく、そして句集を制作している。

私も高橋久美子さんに「国語と音楽の授業をしていただけませんか」と伝えたい。それが貴著を拝読した私なりの結論である。

作家になれなかつた私と、教員にならなかつた彼女。振り返ることは楽しい。そして後悔はない。

シャングリラ 幸せだって叫んでくれよ

意地っ張りな君の泣き顔見せてくれよ

シャングリラ まっすぐな道で転んだとしても
君の手を引っ張って離さない大丈夫さ

音は年齢も国境も越える「言語」である

読破するまで、この曲がずっと流れていた。初めて聞いたとき、「シャングリラ」は杭州にあるホテルかと思っていたが間違いだった。彼女は「音としての言葉」の使い手である。

私は、彼女に国語の授業をした教員の一人である。友人のLINEは、それを確認するものだった。

まもなく、第111回全国図書館大会愛媛大会で再会する。もはや、これは偶然ではなく、必然ではないか。

第111回全国図書館大会 愛媛大会のご案内

第111回

全国図書館大会愛媛大会

図書館が 彩る未来 伊予路から
令和7年10月30日(木)・31日(金)



10月30日(木)・31日(金)の2日間、愛媛県松山市で全国図書館大会を開催します。全国図書館大会は、明治39(1906)年に第1回目が開催されて以来、今回で111回目となる歴史ある大会です。毎年、全国各地で開催されますが、愛媛県では、初めての開催となります。

全国図書館大会は、さまざまな図書館の職員が一堂に会し、図書館を柱とする地域社会の活性化を図ることを目的として開催されます。また、図書館関係者に限らず、本や読書、情報等に関わる全ての人々の交流の場でもあります。

〈大会テーマ〉

テーマの「図書館が 彩る未来 伊予路から」が、五七五のリズムになっていることにお気づきでしょうか? 伊予路は愛媛の道のこと、人や物資と共に文化や情報が行き交う交流の道、正岡子規ら多くの俳人が風景や心情を十七音で表現してきた創作の道、そして千年以上の歴史がある四国遍路の巡礼の道です。伊予路の特徴に、これから図書館を考える上で必要な「人や情報の交流」、「新たな文化の創造」、「多様性と包摂性」といったキーワードを重ね、図書館を使うことで日々の暮らしや地域全体がより豊かで嬉しいものとなり、明るい未来へつながっていく機会にしたいとの思いから、大会テーマを設定しました。

〈記念講演〉

1日目の全体会は、愛媛県県民文化会館で行います。開会式のあと、「読むこと 書くこと 生きるということ」と題した、愛媛県出身の3人の作家を講師とした記念講演のトークセッションがあります。1人目は、四国八十八ヶ所靈場第57番札所の栄福寺(今治市)住職で、映画化された『ボクは坊さん。』の作者・白川密成さん。2人目は、四国中央市出身でエッセイ、小説等の執筆や歌詞提供、愛媛での農業等、幅広く活動している高橋久美子さん。そして3人目は、松山市出身のショートショート作家で、「坊っちゃん文学賞」等において審査員長を務めるなど、メディ

ア出演も多い田丸雅智さんです。進行を務めるコーディネーターは、「いよ本プロジェクト」(伊予市)代表で、私設図書館「ビブリオAA」の運営や、「いよ百冊物語」の活動等を行っている岡田有利子さんにお願いしています。講師のみなさんには、それぞれの文筆活動をはじめ、子どものころからの読書や図書館の体験、書くことや本をつくることへの思い、読書環境の変化などについてお話をうかがいます。

〈分科会〉

2日目は、時代に即した多様な12のテーマで構成した分科会を、愛媛県男女共同参画センターなどの会場に分かれて開催します。

分科会	テーマ
1	公共図書館
2	大学・短大・高専図書館
3	児童・青少年の読書活動支援
4	図書館とデジタル化
5	災害と図書館
6	出版社・書店・図書館
7	専門図書館、健康情報
8	インクルーシブな図書館
9	障害者サービス
10	資料保存
11	図書館の自由
12	非正規雇用職員

基調講演や事例報告、パネルディスカッション等のプログラムがあり、各界の専門分野で活躍する方々を講師にお招きしています。興味のあるテーマを選んで、ご参加ください。愛媛県の事例が全国に発信される貴重な機会에서도ありますので、どうぞお楽しみに。記念講演講師の田丸さんには、第3分科会の講師としてもご登壇いただきます。

愛媛大会では、県内の公共図書館や大学図書館、愛媛県読書グループ連絡協議会、大会協賛企業等による展示や、松山大学学生による企画展示も行います。

講演や展示を通して、大会テーマの「図書館が彩る未来」について、一緒に考えてみませんか。

大会当日まで、残りわずかとなりました。大会参加の事前申込は終了しておりますが、当日受付も実施します。皆様のお越しを、お待ちしております。

(相談グループ 岡本かおり) 愛媛大会紹介サイト



全国から111(トリプル・ワン)の繋がりを! ～関連プログラム事業「トリプルワン・プロジェクト」について～

全国図書館大会愛媛大会の関連事業として、2024年10月30日から愛媛大会当までの1年に渡って、「トリプルワン・プロジェクト」を実施しています。

この事業は、図書館や団体等が実施する文化・芸術事業を「トリプルワン・プロジェクト」として認定し、それぞれの事業を通じて愛媛大会を盛り上げ、愛媛県の魅力を発信することをねらいとしています。

プロジェクトへの参加対象となる主な事業は、愛媛県内における文字・活字文化に関する文化・芸術事業、愛媛県外における愛媛をテーマとした文化・芸術事業です。プログラムとして認定された事業では、メインビジュアル等のロゴマークを表示いただき、愛媛大会をPRしていただいている。

全国図書館大会が111回目を迎えることにちなみ、関連プログラムの数が111(トリプル・ワン)となることをを目指し、全国からプロジェクトへの参加を募集しています。認定された事業は、大会ホームページで紹介しています。

The screenshot shows the homepage of the 111th National Library Conference Ehime website. It includes a navigation bar with links to various departments like Health and Welfare, Education, Culture, and Economy. A prominent banner at the top is titled '第111回 全国図書館大会愛媛大会' (111th National Library Conference Ehime). Below the banner, there's a section for the 'トリプルワン・プロジェクト' (Triple One Project) with a call-to-action button. The page also displays the conference dates (October 30-31, 2024) and a map of Ehime Prefecture.

大会ホームページ内 トリプルワン・プロジェクトのページ
<https://www.pref.ehime.jp/site/111th-library-ehime/list183-624.html>

ここで、認定された事業を少しご紹介しましょう。
(令和7年7月上旬時点)

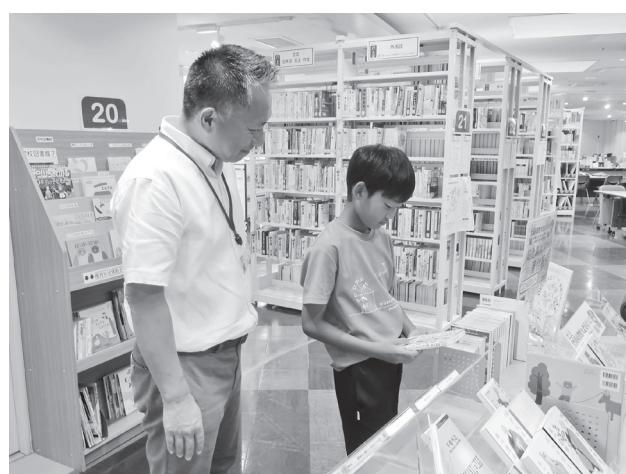
県内からは、おはなし会や展示、講演会といった公共図書館ならではの事業の参加がありました。中でも、八幡浜市立保内図書館で開催された「絵本作家 長谷川義史さん絵本ライブ」、松前町ふるさとライブラリーで7月27日に開催された「まつざきしおりさんトークショー」は、作家による絵本ライブやトークを通じて、作品のおもしろさや奥深さを体験し、作

者のいろいろな作品を読みたくなる企画です。また、西予市図書交流館中央館（まなびあん）の「ほしざら教室 in まなびあん」は天体観測とブックトークを組み合わせた特色ある内容となっています。大学図書館からは、役者評判記の世界を通して出版や歌舞伎について学ぶ愛媛大学図書館学術講演会「江戸歌舞伎の芸評書－役者評判記の世界－」や、愛媛県立医療技術大学図書館の展示「水野広徳～非戦の論陣を張った軍事評論家～」といった学びを深める事業が集まっています。

また、図書館以外の施設・団体からの事業では、LAひと主催の読書活動の可能性や学校図書館の魅力をより多くの人に伝える研修会「広がれ、深まれ、読書活動の可能性」や、NPO法人空色ボイス・いよ本プロジェクト運営委員会の朗読の楽しみを共有し、読書活動につなげていく「ぼくらの朗読会」にご参加いただきました。

愛媛県外からは、栃木県と愛媛県に共通する宇都宮氏をテーマにした栃木県立図書館の資料展示「愛媛県の宇都宮氏とゆかりの地」や、高知県四万十町と愛媛県宇和島市を結ぶ予土線を紹介した四万十町立図書館の「予土線について」の展示といった各地と愛媛県との関わりを示す特色ある事業のご参加をいただきました。

こうした「トリプルワン・プロジェクト」を通じて愛媛や図書館に関心を持ち、愛媛大会に参加される方が一人でも増えればと思います。最後になりましたが、当事業にご協力いただきました皆様には、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。



認定事業「読書感想文にチャレンジ!」(県立図書館)の様子

(図書整理グループ 堀内悠加)

建物・建設地の検討過程 愛媛県教育文化会館50周年こぼれ話なし②

令和7年は愛媛県立図書館が設立されてから90周年、現在の教育文化会館に移転・開館してから50周年にあたります。そこで前号に引き続き、県立図書館の歴史を振り返ります。

今回は県立図書館に残されている『愛媛県教育文化会館建築関係綴』を手がかりに、開館までの経緯をたどります。

新館建設についての県立図書館内での検討は、昭和47(1972)年4月からはじまっています。同年10月27日には、基本構想が完成しました。新しい県立図書館は、「愛媛文化の中心的な機関となるよう、図書館・文書館・情報資料センターおよび視聴覚教育センターとしての機能を有する近代的総合施設」として、(1)情報資料センターとしての機能の充実、(2)文書・文献等郷土資料の総合保存活用、(3)視聴覚教育機能の整備拡充、(4)図書館機器の近代化、(5)中央図書館としての機能化と教養・文化的機能の充実、を掲げています。建物は、延床面積8,000m²。1階は県内図書館網センター機能(館外編成室、児童閲覧室、幼児読書指導室、会議室、事務室等)、2階は教養・情報センター機能(開架閲覧室、情報コーナー、ブラウジングルーム等)、3階は郷土資料・文書館機能(伊予俳諧文庫室、展示室、貴重書庫、研究室等)、4階は視聴覚教育センター機能(TVスタジオ、レクチャールーム、コード試聴室等)、地階に機械室(空調室)という、全館を図書館とする構想でした。

同年12月に県立博物館との協議を行い、建物全体の延床面積を6,000m²、図書館部分4,360m²、博物館部分1,640m²とする平面設計図が作られました。の中には、地階に文書館(292.5m²)があり、「藩政時代からの古文書、明治以降の行政文書・記録、その他古くからの文化遺産など、郷土資料を後世に伝えるよう選択保存し行政上、教育上の用に供するとともに県内外の研究者にも公開利用するため必要である。」と説明されています。

翌48年1月には、建物の名称を愛媛県立社会教育センターとし、愛媛県政百年記念事業の一つとして建設することに決定。その後、同年9月に名称を愛媛県教育文化会館として、建設費用が補正予算に計上され、副知事を委員長とする建設委員会が立ち上りました。この時点での構想は、建物の延床面積6,000m²(図書館4,350m²、博物館1,650m²)、地階に文書館・機械室等、1階に事務室・会議室等、2階に閲覧室・文庫室等、3階に閲覧室・展示室等、4階に博物館を配置するものでした。

建設予定地の松山市堀之内地区は、国の史跡「松山城跡」に指定されていることから、文化庁との建設に向けた折衝が大変だったようです。当初の建設予定地は、松山競輪場の南、愛媛県民館の東、松山財務部の西、松山市営プールの北に位置する、自衛隊愛媛地方連絡部庁舎の敷地とこれに隣接する都市公園敷地でした。



昭和48(1973)年の堀之内

文化庁との交渉を経て、昭和49(1974)年1月の第3回建設委員会では、県立美術館(現・県美術館南館)の東側、市営プールの児童プールの敷地に建設することが決まりました。この時点で、それまで構想にあった文書館は文書室となっています。そして4月には、延床面積6,000m²、うち図書館部分4,200m²、博物館部分1,800m²とする教育文化会館の設計が完成しています。

同年4月2日に史跡松山城跡の現状変更についての文化庁長官の許可が下り、7月16日に着工、翌50(1975)年5月15日に教育文化会館が完成、県立図書館は10月1日に開館しました。かつて構想されていた文書館は、新しい県立図書館では「郷土の文書・資料の収集と研究・活用をめざす文書館的運営」(昭和50年重点目標の基本方針)として、司書とは別に古文書整理の知識を有する職員を配置して取り組まれることになりました。

開館から50年が経ち、教育文化会館の中も、堀之内も様変わりしました。県立図書館は来年8月には再び堀之内に戻る予定ですが、かつての構想に込められた先人の想いを大切にしつつ、時代の変化に応じた県立図書館のあり方を考えていきたいと思います。

(相談グループ 天野 奈緒也)

仮設図書館を開館しました

愛媛県立図書館は築49年を経過し、利用者の安全の確保と施設の機能向上を図るために、耐震・機能向上改修工事を実施（※令和7年2月から令和8年5月の予定）しています。

安全・迅速に施工するため、工事期間中は完全閉館していますが、資料の一部を移転した仮設図書館を令和7年2月1日に開館し、図書館業務を行っています。



愛媛国際貿易センター
(アイテムえひめ) 外観

仮設図書館のある愛媛国際貿易センター（通称：アイテムえひめ）は、平成8（1996）年3月に落成した、国際見本市・各種大会等が開催できる展示場や会議室、賃貸型ビジネスオフィス、立体駐車場等を有する施設です。

現図書館と比べると資料冊数は減少（75万冊→11万冊）し、施設規模は縮小（6,445m²→1,060m²）していますが、可能な限りこれまで通りのサービスを提供し、県立図書館の第一義的な役割である市町立図書館や学校図書館等への支援を継続しています。



仮設図書館入口
アイテムえひめ3階スカイホール

仮設図書館のサービス概要

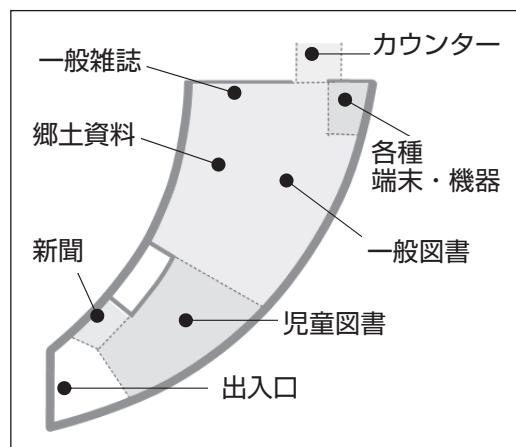
資料の閲覧	△一部制限（注1）
貸出・返却	○通常どおり
蔵書検索	○通常どおり
資料の予約	○通常どおり
レファレンス	△一部制限（注2）
新聞の閲覧・複写	△一部制限（注3）
デジタルアーカイブ (電子化郷土資料)	○通常どおり
インターネット、 商用データベース、 国立国会図書館資料	○通常どおり

（注1）仮設図書館は約3万冊を公開し、外部倉庫に約8万冊を収蔵しています。これ以外の蔵書は利用できません。

（注2）利用可能な図書の範囲内で対応しています。

（注3）各紙の原紙1年分とマイクロフィルムを提供しています。

仮設図書館のレイアウト



新しいサービスのご案内

電子書籍

（令和6年10月1日から）

図書館ホームページから読むことができる電子書籍を試験的に導入しました。

利用の際は、「MYライブラリ（利用者ログインサービス）」のパスワードが必要です。パスワードは、来館または「手のひら県庁（えひめ電子申請・施設利用予約システム）」からお申込みください。

2025年6月17日現在の電子書籍は153点です。

Instagram

（令和7年3月7日から）

図書館活動を広く発信するため、インターネット上の写真・動画共有SNS Instagramを

開始しました。図書館の利用案内や図書の紹介などを行っています。

在架予約

（令和7年2月26日から）

ホームページから予約する際、これまで貸出中のものしか予約できませんでしたが、仮設図書館開館にあたり、全ての資料を予約できるよう試験的に運用しています。

蔵書検索した際、「所蔵場所」が（仮設**）または（外部**)と表示されるものは、画面に表示される「予約かごへ」というボタン（予約かごへ）をクリックして予約してください。

（相談グループ 木下 和幸）

手のひら県庁

インターネット
ログインサービス
利用登録願



Instagram



